

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>26<

教訓は生かせるか：

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす」

自助・共助・公助

【杉尾】いろいろなフットの取り組みを紹介いただいたんですが、住民の皆さん方にとっては避難勧告あるいは避難指示というのが頼りになるわけですね。

ところが、行政の皆さんというのはものすごく苦労しておられるとお聞きしています。延岡のほうでも昨年発令されたということで、その辺の苦労を少し紹介ください。

【首藤】通常この避難勧告等の発令については、地域防災計画の中に発令基準があり、そ

というところで災害対策連絡会議を設置いたしました。

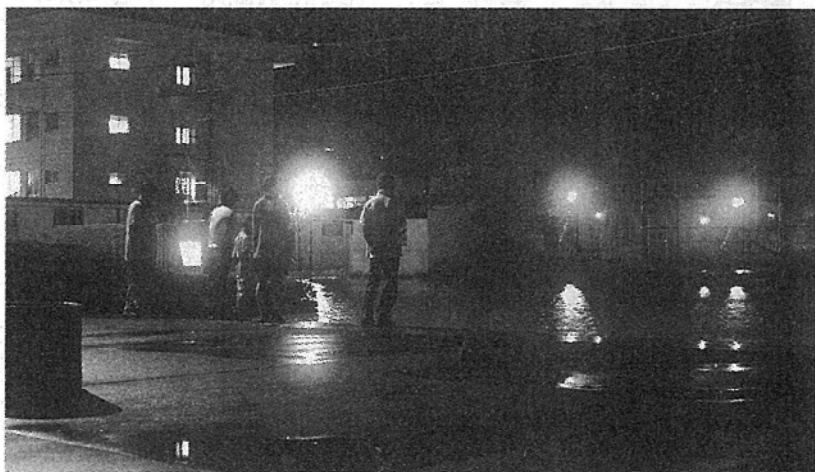
この時は主に情報収集とかをやっていくわけですが、その2日後、10月12日に、どうもこれは本間に間近になってきたということで災害警戒本部に格上げし、その日のうちに災害対策本部にしたわけです。

災害対策本部で情報を収集し、さまざまな準備をしていく中で、夕方の5時半、市内全域に避難勧告を発令することになりました。その時は、実はまだそ

んなに被害が出そうではなかったんですが、いろんな情報を分析すると、深夜に台風がピークを迎えそうだったのでした。

ピークを迎えてから避難勧告を発令すれば、深夜の避難というのは非常に危険を伴いますし、情報が十分に浸透しません。週末で休みになり、そういった避難勧告に気づかない方も出てくる恐れがありました。

もう一つは、台風の規模がとて大きく、市内全域に影響が及ぶ恐れがありました。ですから、市内のどこかの地域に避難勧告を出すということではなく、市内全域に出すことになり、そういうふうにしたらいいかという混乱も若干あったの



被害ない段階で勧告発令

戸惑いあるが心すべきこと「空振りを恐れない」

は事実です。

ただ、われわれとしては、避難勧告の発令などに当たって一番心しておくべきことは、空振りを辞さないこと

です。それでも、市内全域ということでしたので若干戸惑いがありました。

「避難勧告が出たけれども何ともなかったじゃないか。避難するのは結構大変なんだから十分な確証もなく避

台風14号で多くの人が避難した市民体育館は夜になっても周囲の浸水が続いた（平成17年9月6日午後7時すぎ）

避難勧告なんかするなよ」と後でお叱りの声が出ることもあるわけです。

コーディネーター
杉尾哲（宮崎大学名誉教授）
パネリスト

首藤正治（延岡市長）
図師雄一（宮崎県土整備部長）
大塚法晴（元延岡河川国道事務所長）
森川幹夫（九州地方整備局河川部長）
猪狩信浩（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長）
福岡宏一（元延岡市消防団長）
亀長馨（元北方町川水流区長）

防災・減災を考える
シンポジウムから――